



発達障害のある高校生の支援策を探る研究会を京都の私立高教員らが立ち上げ、意見交換を重ねている。高校は小中学校に比べて特別支援教育を通じた教員が少ないなど、さまざまな要因で発達障害への対応が遅れているためだ。研究会では各校の事例を紹介し合いながらノウハウを蓄積しており、成果として冊子も刊行した。メンバー

は「生徒が安心できる環境を整えたい」と意気込んでいる。  
「自分の意思を伝えることが苦手なクラスメートへの接し方を生徒から相談された。どうアドバイスすれば良かっただろう」  
17日、京都市中京区の花園大。教員や大学研究者ら約30人が集まつた会議室で、参加者の1人が発達障害への対応の悩みを打



**上発達障害のある生徒に対する支援のあり方を話し合う研究会のメンバー（京都市中京区・花園大）**（カウンセリング研究会が高校生の発達障害をテーマに作成した冊子）

# 私立高教員連携 発達障害の支援

ち明けた。他のメンバーは「生徒の思いを引き出す雰囲気づくりが大事」「会話が難しいならメールも一つの方法では」と助言した。

この日開かれたのは「京都私立中学高校連合会カウンセリング研究会」。発達障害のある生徒の支援体制を私立高に整える

目的で2014年秋に発足した。アドバイザー役である花園大の橋本和明教授は「高校教員は担任同士より教科ごとのつながりが強く、生徒の情報が共有しにくい。さらに私立は公立のように特別支援学校との人事交流もないため、発達障害のある生徒への援助が十分でなかつた」と背景を説明する。

研究会はこれまで6回開催し、京都、滋賀の公私立高延べ34校から、教員やスクールカウンセラー、養護教諭らが参加した。各校の教員が事例を紹介し、より良いサポート方法を議論してきた。

研究会で出た事例を基に冊子「高校生の発達障害」も発行した。橋本教授が執筆を担当し、発達障害の早期発見や問題行動への対応、授業や学習指導での留意点などの課題についてアドバイスを盛り込んだ。

研究会常任委員長である龍谷大付属平安高の吉岡幸司教諭は「同じ私立高の仲間として情報交換を続け、生徒に対する支援を充実させたい」と話している。  
冊子の電子ファイルは橋本教授のホームページhttp://k-hashim.netからダウロードできる。

(高野英明)